

点字図書書き方形式変更箇所について

(1 ページ)

2. 書名・副書名・叢書名など

トビラ・奥付に記載されている該当事項をすべて記入する。ただし、判断が付きにくいものは点訳者の考えとする。書名と副書名（原本に棒線・カッコ等を使っていない場合は前後に棒線を付ける）は内枠内に書き、叢書名は書名枠の下に第1カッコで囲んで書く。

↓

(前後に棒線を付ける)

(3 ページ)

6. 点訳書独自の凡例や留意事項がある場合は、点訳書凡例として第1巻の目次の後に入れ、『点訳書凡例』として書く場合は、原則として、たとえ1項目で、1～2行で済む場合でも、点訳書全巻に影響を及ぼす凡例の場合は、目次の次に用紙を改めて書き、点訳書の特定の箇所だけに関する項目の場合は、その箇所で点訳者挿入符を用いて書くなどしてもよい。

↓

6. 点訳書独自の凡例や留意事項がある場合、点訳書全巻に影響を及ぼす凡例は、「点訳書凡例」として第1巻目の目次の直後に入れる。その場合、用紙を改め、1行目（9マス目）に「テンヤクショ□ハンレイ」と書く。なお、点訳書の中の特定の箇所だけに関する項目の場合は、その箇所で点訳者挿入符を用いて書いてもよい。

(14 ページ)

5. 詩や俳句・短歌などの作者名が行末に書かれている場合、基本的には行頭偶数マスあけとし行末近くを書く。ただし、短歌・俳句などの後ろに作者名が続いている場合は、作者名の前を二マスあけて書く。

↓

5. 詩や俳句・短歌などの作者名は行末近くを書くことを原則とする。

(35 ページ)

副書名の書き方（誤り）→3ページの奥付書き方形式（基本）参照